

令和元年度第2回タウンミーティング ～ 質疑応答（概要）～

【質問・要望・意見1】

少子高齢化対策について

「光輝く高齢者未来計画 2018」概要版の基本目標に「地域で支え合う仕組みの拡大」というものがあり、私たちがやっていることにも意義があるのだと改めて感じました。

少子高齢化ということで、団塊の世代、さらにその子どもたちの世代が高齢になる頃は、聞いてはいましたが改めて大変だなと感じました。

我々の会でもいろいろと議論をする中で、経済のサイクルを回していくために、子どもを増やさなければいけないということですが、今は結婚をしない人が多い中で、それを変えるためにも地域の顔見知りを増やし、地域のつながりを強化していかなければいけないと感じます。

今後、教育面でどのようなビジョンを持っているのでしょうか。

市長回答

まずは少子化の話ですが、アジアの地域で一番出生率が高いのは日本です。韓国は0.98、日本は1.43です。人口が増えるには、確かこれが2.3程度必要と言われています。習志野市は低いといってもアジアの中では高い方なのです。

少子化というのは一朝一夕にはいかない問題で、今おっしゃった結婚をしないということも含めて、その一つに情報化社会というのがあると思います。一例を挙げると、今は、これだけ高齢者の数が増えているのに高齢者のサークル自体は減っています。なぜかという、昔は情報がないので団体にならないといろいろなことができなかったのです。昔は高齢者の人数も少なかったので、少ない高齢者同士で旅行に行こうとしても旅行会社に断られていました。ですので、老人会を作って団体で動こうとなったわけです。ところが、今は高齢者が多いので個人を相手にしても十分に商いが成り立つわけです。しかも情報化社会で情報を自ら入手して行けるといことであれば、自分で好きに過ごすのが良いわけです。そういうこともあって、趣味も多様化し、分散化します。つまり個人化することで、結婚しない理由がたくさんあるということです。

では、どうするのかということですが、来年オリンピックがあります。オリンピックも総活躍社会の一つの源泉です。今観光にもものすごく力を入れています。日本の常識だと、日本で生まれたら日本でずっと暮らすというのがスタンダードですが、外国、特にヨーロッパの人は引っ越しで国籍を変えたりします。あるいは、冬はオーストラリア、夏は日本で過ごすというように季節によって国を使い分ける人もたくさんいます。そういった多様性を受け入れて外国の方に少しでも日本に接してもらおう、これが観光に力を入れる一つの理由であり、オリンピックの政策の一つとなっています。コンビニに行くと、店員さんが外国人ということが多いと思います。これは労働力対策にもなっていて、外国の方にも手伝ってもらおうというのもあります。

教育では、そういったことにしっかり対応していく子どもを育てていかなければな

令和元年度第2回タウンミーティング ～ 質疑応答（概要）～

らないと思います。TPP の時に議論になりましたが、日本というのはさまざまところが優れているので世界に堂々と出て行って決して引けを取りません。ところが、「日本にしか通じないのではないか」と思うので小さくなりがちです。これを広げていき、広げていく中で外国語を話せるお子さんを育てていくこと、しっかりと健康を保った運動能力を兼ね備えた子どもになっていくことが大切です。また、男は仕事、女は家庭という昔の考えではなく、誰もが個人としていろいろなことに取り組んで働いていくというマインドと習慣をつけていくこと、このことによって起こる化学反応によって、大きな夢を叶え、大きな所得を得てほしいです。

指導の現場での今の課題は、教材が多すぎて取り扱えないということです。ですのでタブレットなどを使って教育をしていけば、子どもたちにとっても重い教材を持っていく必要がないですし、子どもたちも最初からタブレットなどの技術に触れることができるので大人になってからも当然使えるわけです。そういうような教育を今目指すべく予算編成も今行っています。

【質問・要望・意見 2】

結婚しない人が増えていることについて

結婚をして家庭を作ると、こんなにも楽しい、良い家庭作りについて学べば、結婚をしたいと子どもたちも思うのではないのでしょうか。学校では教育としてそのようなことを取り入れないのですか。

市長回答

私自身の考えも今おっしゃったことに近いところではありますが、情報化社会では難しいと思います。今は情報が満ち溢れているので、価値観の押し付けにならないように気を付けないとすぐに逃げられてしまいます。なので、それがすべてということではなく、基本的にはすべての事象を受け入れる中で、選択肢の一つとして、そういうこともあるよという提示の仕方をしないとイケません。物事の二面性を両方理解して対峙しなければならないのが、今だと思います。